

九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

ICER Newsletter

ようこそ、「グローバル社会考古学」へ！ JMOOCから九州大学初のMOOCが開講しました



2014年4月から教材開発センターが取り組んできたMOOC講座「Global Social Archaeology (グローバル社会考古学)」が、ついに9月25日にJMOOC (Japan Massive Open Online Courses) から開講しました。この講義は、九州大学教授で世界考古学会議の会長である溝口孝司先生と、前会長のクリア・スミス先生がご担当なさいます。今回はこの講座の特徴をご紹介します。

第一に、JMOOC 最初の英語講座として開講します。グローバルな学習者が対象です。第二に、JMOOC 初の日本語と英語の字幕付きです。英語の講義ですが、字幕や翻訳で丁寧に対応をしているので、英語が完全にわからなくても幅広い方が受講することができます。第三に、国際性豊かな登録者です。中華人民共和国、ブラジル、アメリカ合衆国、大韓民国、カナダ、ポルトガル、ロシア連邦など様々な国から参加しています。

是非、国内外の学習者と共に、九州大学の Global Social Archaeology に参加して、新たな学びの扉を開けてください。

【安西 弥生 准教授】



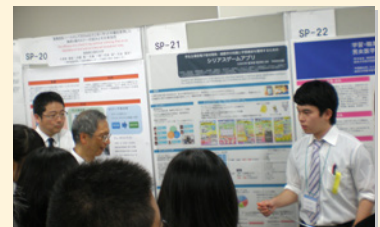
OpenLearning, Japan
<https://open.netlearning.co.jp/>

JMOOC (日本オープンオンライン教育推進協議会)

日本版のMOOCを広く普及させることを目的とし、2013年に一般社団法人として、日本オープンオンライン教育推進協議会(略称JMOOC)を設立。JMOOCの新たなMOOCsプラットフォームであるOpenLearning, Japan(株式会社ネットラーニング)より最初の講義コンテンツとして、九州大学が独自制作した「Global Social Archaeology」が2014年9月25日に開講した。URL ▶ <http://www.jmooc.jp/>

P&P 医学教材開発 ～学会発表を経験して～

2014年7月19日に和歌山県立医科大学で開催された第46回日本医学教育学会大会で、昨年度開発した医学教材について「学生主導型電子教材開発：細菌学の知識と学習意欲を獲得するためのシリアスゲームアプリ」というタイトルで、開発メンバーを代表してポスター発表をしてきました。初めての学会参加で緊張しましたが、なんとか無事に発表を終えることができました。シリアスゲームを用いた同様の発表が他になかったことや、実際の教材をタブレット端末で体験してもらったことなどから、学生を中心に好評を博しました。シリアスゲームを作成してみたいという方からの作成までに要した期間やリソースに関する質問や次回作へ期待するなど多数の質問とコメントを頂きました。自分たちの手で一つの物を開発し、それを発表するという大変貴重な経験をさせて頂きました。今後の自身の研究・開発にこの経験を生かしていこうと思います。



【河津 宗太郎 (医学部医学科5年)】

Web学習システムで課題を使うには

【準備】 Web 学習システムでは、受講者に課題を出せます。「コンテンツ」に教材を置いている場合には、図 1 に示すように「アセスメント」から「課題」を選択します。



図 1

図 2 に示すような課題の準備画面で、課題情報の「名前と色」、「手順」を入力します。「名前」は課題につく名前です。「手順」では文字の種類、大きさ、色などを指定できます。「ファイルの添付」の「マイコンピュータの参照」から事前に準備しているファイルを添付もできます。



図 2

画面の下半分の「採点」の部分で、「満点の点数」、「実施回数」、「表示の日付制限」(表示の開始日と終了日)、「期日」(課題の提出可能な日時)を設定できます。これは課題を設定した後も変更ができます。何度か再提出できるようにするには実施回数を 2 回や 3 回などに設定します。

【採点】 提出された課題を採点するには、図 3 に示すように「成績センタ」から「要採点」を選択します。

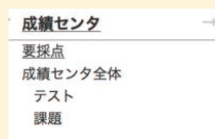


図 3

提出済みで未採点の課題一覧が表示されます。一覧の上の「項目」をプルダウンで選択して、課題毎に表示できます。受講者の名前の部分をクリックすると提出された課題の内容が見え、採点できます。

【成績】 採点した結果は「成績センタ」の「課題」をクリックすると、一覧表示されます。この結果を CSV でダウンロードするには、画面右上の「オフラインで作業」から「ダウンロード」を選択して、ファイルをダウンロードします。

【藤村 直美 教授(教材開発センター長)】

撮影の現場から ～機材紹介 カメラ編～

教材開発センターでは、高品質な映像教材を制作できる環境を整え、用途に合わせた業務用カメラを数種類用意しています。例えば、主にスタジオで使用しているカメラはロケーション撮影にも対応しており、動きのある被写体や背景との合成に強く、最大 2.5 倍のスローモーション収録ができ印象的な映像表現が可能です。また、オートフォーカス付きの 16 倍レンズと、エクステンダーと呼ばれる焦点距離を 2 倍に伸ばす事の出来る 17 倍レンズを取り付けています。その他にも、離れた場所から操作が可能な旋回リモートカメラや、10 倍のズームが可能な小型・軽量ハンディカメラ、水中撮影や空撮も可能な超小型カメラ、どこにでも取り付けて収録可能なカメラなどもあります。これらのカメラを効果的に活用して教材を制作することで、受講生の創造性を豊かにするアツと驚くような表現や思わず見入ってしまう表現などが可能となります。撮影についてのご相談がございましたら、教材開発センターまでお気軽にお問い合わせ下さい。



【福田 環(テクニカルスタッフ)】

次世代の教材開発を支える技術

～その3 3Dプリンター～

今回紹介する 2D/3D 教材開発システムは、「3D プリンター」です。この装置は、コンピューター上で制作されたデジタルな形状データを、実際の物として出力する装置です。

現在、教材開発センターでは、人文科学研究院の坂上康俊教授と共に宮中の儀式を再現する教材の開発に取り組んでいます。このプロジェクトでは、CAD を利用して制作した京都御所内の紫宸殿^{しんてん}の形状を、3D プリンターで出力したり、宮廷の儀式を CG で再現するために利用したりしています。宮中の儀式の様子を紙の媒体だけで学習するだけでなく、3D プリンターで構築された建物や CG によるアニメーションを見ながら学習することで、学習効果や興味・関心などのモチベーションの向上が期待されます。



3D プリンターを利用して電子教材を開発してみたい方がいらっしゃいましたら、是非私達と一緒に教材開発を試みませんか。ご連絡お待ちしております。

※写真中の紫宸殿の 3D モデルはプロトタイプ版です

【金子 晃介 助教】

P&P 研究成果一般公開のための特別展

10月18日から行われる、九州大学総合研究博物館特別展示「九州大学教育・研究の最前線 -第13回 P&P 研究成果一般公開-」で、教材開発センターの活動を展示します。平成 25 年度までに終了した P&P (九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト) の研究課題を対象に、プロジェクトの成果をひろく一般公開するものです。教材開発センターからは、平成 24 年度 P&P に採択された、「病院地区における 3D 教材の開発および開発・提供体制の構築」を紹介し、平成 24 年度に行われた骨学教材開発、平成 25 年度のシリアスゲーム開発について、プロジェクトの様子を写真とともに紹介します。入場は無料で、学外・学内問わずどなたでもご覧いただけます。みなさまのお越しをお待ちしております。

開催期間 ▶ 平成 26 年 10 月 18 日 (土)～11 月 14 日 (金)

場所 ▶ 九州大学 伊都キャンパス 椎木講堂 2F 南ホワイエ